

# 令和7年度学校自己評価システムシート (県立浦和高等学校 定時制課程)

目指す学校像	社会的自立を目指し、未来を拓く誠実な青年を育成する
--------	---------------------------

重点目標	1 定時制の生徒に合致した「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した授業に組織的に取り組む。 2 地域の多様な人材等の外部教育力や支援制度を活用してコミュニケーション能力を育み、社会的な自立心を育成する。 3 組織的なキャリア教育・進路指導に取り組み、進路決定に導く。 4 組織的かつ計画的に、日々の教育活動を発信し、開かれた学校づくりを進める。
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	生徒	2名
	事務局(教職員)	5名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標				年 度 評 価 ( 2 月 1 日 現 在 )			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	義務教育の授業で充実感を味わった経験が欠しく、学習内容が十分に身につけていない生徒が多く、また、学習と自分の将来を結び付けていない生徒も見受けられる。充実感や達成感を味わえるよう個に応じた指導と、自己評価しやすい授業を展開することで基礎学力を向上させ、生徒が学びを自分の生き方と関連付けられるよう組織的に取り組む必要がある。	①「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業等の実践と改善に向けた取組  ②外部支援者を活用した細やかな学習支援	①毎時間や単元の目標を提示し、生徒自身が到達度を認識できるような授業を、ICT機器の活用など工夫して分かりやすく展開する。この際、すべての授業等で評価の観点として学ぶことが自身の生き方と関連することを意識させるものを設定する。 ②日本語支援員、学習サポーターを効果的に活用する。	①アンケートの「授業への参加状況」、「授業の理解度」の肯定的数値が学期を追うごとに向上したか。  ②アンケートの「日本語支援員や学習サポーターがいるときの学習意欲」の肯定的な回答が7割以上か。	1学期末と2学期末にアンケートを行った。 ①「授業への参加状況」として集中している生徒は96%→93% 「授業の理解度」は92%→93%  ②「学習サポーター等がいるときの学習意欲」は69%→63%	A	「授業への参加状況」と「授業の理解度」は良い状態であるが、学習を含む学校生活が自分の将来と結びつかない生徒もいる。次年度は学校での学びを自分の生き方と関連付けて取り組む姿勢をさらに醸成する。
2	成育歴や学習歴から生徒が抱える課題が多様であり、それらに対応しながら学校生活を通じて社会性を身につけさせることが求められている。外部教育力を活用したソーシャルスキルの育成が必要である。	①外部専門職と連携した様々な状況の生徒に対応できる体制の構築  ②教育活動における各種教育支援の活用と環境整備	①特別支援教育コーディネーターやSC、SSW、各種支援機関と連携し、個別面談やケース会議等を実施する。 ②多様な文化的背景を持つ生徒への対応として、新たに開設した授業「日本語」と日本語支援員の活動が良い相乗効果を生むよう活用する。	①専門職のアドバイスを参考にし、時期・状況に適した面談等を展開したか。また、定期的な生徒情報交換会を実施したか。また、アンケートの「人間関係」の肯定的意見が8割以上か。 ②始業前の日本語勉強会への参加率や日本語検定等の受験状況は向上したか。	①定期も含め臨機応変に情報交換と面談を行った。外部の支援者等も含めたケース会議も複数行った。「(良好な)人間関係」は友人とが92%→96%、教員とが96%→96% ②日本語勉強会ではしばしば欠席がみられ、検定受験者はいなかった。	B	SCやSSW、外部専門職と連携した支援は今年度同様維持しつつ、個々のソーシャルスキルを向上させる取組を実施する。
3	様々な理由により生徒の進路意識は未熟であり、将来の夢ややりたいことを見つけれない状況がある。生徒の進路支援を充実させ、意識の向上を図るとともに、将来の夢や具体的な目標を持たせるべく様々な挑戦の機会を作り、進路実現につなげる。	①「浦定チャレンジ」の活用 ②4年間を見通した体系的なキャリア教育・進路行事の設定と実施による進路意識と進路決定率の向上	①「浦定チャレンジ」の具体的な活用を示し機会あるごとに促す。 ②外部教機関も活用したキャリア教育を推進し、社会体験活動や職業体験、進路講演会を実施する。この際、学年を超えた集団で相互に学びあう機会も設ける。	①アンケートの「浦定チャレンジ」を8割以上の生徒が記述したか。 ②アンケートの「進路意識向上」の肯定的意見が7割以上か。また、就業体験した生徒が半分程度いたか。	①「浦定チャレンジ」は全員が記述した。  ②「進路意識向上」は65%→70% また、アルバイトを含め就業体験した生徒は67%	A	「浦定チャレンジ」は全員設定することができたので、次年度は内容が充実したものとなるよう取り組み、特に、それが自分の進路とどのように連鎖するかを自覚させる。
4	コロナ禍前の保護者会に近い活動を行えるようになったが、その目的の達成は十分とは言えない。ICT機器が普及してきたことから、本校の活動や魅力を発信するだけでなく、双方向で情報交換ができるような工夫が求められている。	①保護者を始め誰もが見やすい学校からの情報発信の研究と実施  ②保護者参加型の行事企画と積極的な情報提供	①学校HPでの情報発信を維持しつつ、他のツールでも発信することで保護者等と緩やかな双方向での情報交換が行えるよう工夫する。 ②保護者参加行事を実施し、本校の教育活動への理解を深めてもらう。	①新しい情報発信の方法を取り入れたか。  ②保護者会参加者アンケートでの肯定的意見が8割以上か。	①今年が県全体での大規模な情報基盤ツールへの入れ替えがあり、新しい情報発信方法を取り入れることはできなかった。 ②保護者会参加者の86%が良かった取組があると回答。	B	学校説明会参加者はHPのような全体的な情報に関心がある。一方、保護者は子供の情報を欲しており、授業参観と給食試食会が特に好評である。次年度は、授業参観など生徒の様子を見ることができるとい。

学校関係者評価
実施日 令和8年3月7日
学校関係者からの意見・要望・評価等
基礎学力の向上と定着のためにこのような取組を継続することは大切ではあるが、定時制の教育の意義を、単なる学力向上だけではなく「AI時代に対応する自立した個人の育成」という観点からも捉えるのはどうか。
様々な事情の生徒が在籍している状況において、個々の実情に応じた細やかな対応をしている。
与えられた課題をこなす能力よりも、自ら問いを立て、課題を設定できる「主体性」が重要となっている。浦定チャレンジなど、生徒が自発的に目標を立てるプログラムは、この主体性の育成に適している。
保護者に好評な授業参観や給食試食会を増やすなどして、この領域がAとなるよう取り組んでもらいたい。全日制や地域との連携機会を検討するはどうか。また、給食食材の高騰に対しては公的な手厚い支援があるとよい。